

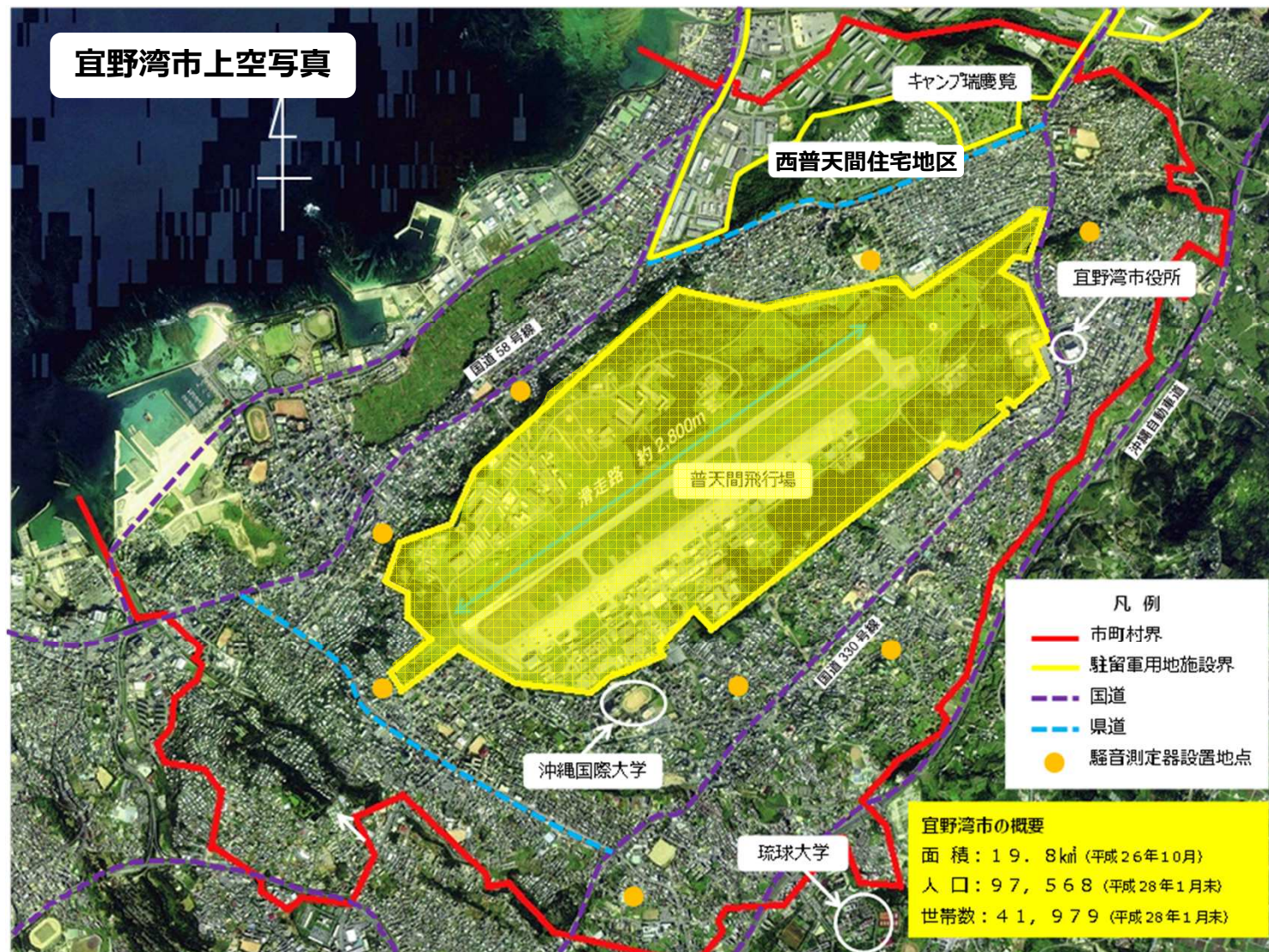
平成28年度
宜野湾市訪米要請行動
報告会

平成28年6月10日(金)

宜野湾市 基地政策部 基地渉外課



普天間飛行場の概要



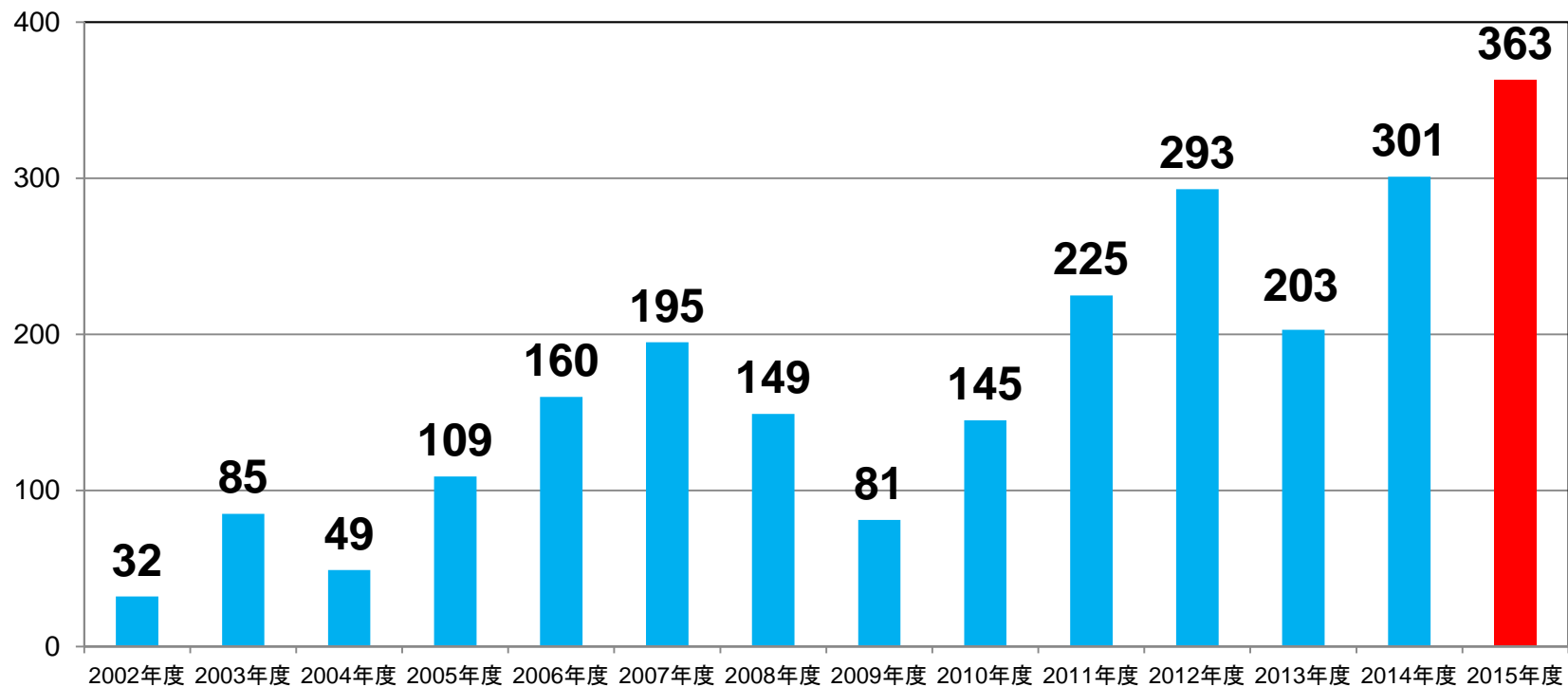
普天間飛行場返還問題

これまでの主な経緯

1996年12月	「SACO最終報告」で「今後5年乃至7年以内に、十分な代替施設が完成し運用可能になった後、普天間飛行場を返還する」と合意
2004年8月	沖縄国際大学へ米軍ヘリが墜落
2006年5月	在日米軍再編協議最終報告(日米ロードマップ)において、普天間飛行場代替施設の建設は2014年までの完成を目標とすることを合意
2012年10月	MV-22オスプレイの配備が開始(2013年9月配備完了)
2013年4月	日米両政府による統合計画において、普天間飛行場の「2022年度またはその後」の返還時期を公表
2014年2月	第1回普天間飛行場負担軽減推進会議が開催
2014年8月	普天間飛行場所属のKC-130空中給油機全15機の岩国飛行場への移駐完了
2015年10月	第3回普天間飛行場負担軽減推進会議が開催(その後、現在まで中断)

騒音被害の深刻化

基地被害110番 騒音苦情件数



昨年10月には、これまでにない1カ月で100件の騒音苦情が寄せられた

市内9団体による宜野湾市共同声明



共同記者会見(平成27年11月30日)

構成団体

- 宜野湾市
- 市議会
- 教育委員会
- 自治会長会
- 老人クラブ連合会
- 婦人連合会

抗議・要請先

〈県内〉

沖縄防衛局長、沖縄県知事、外務省沖縄担当大使、第三海兵遠征軍司令官、在沖米国総領事

〈県外〉

内閣総理大臣、内閣官房長官、外務大臣、防衛大臣、沖縄及び北方対策担当、駐日米国大使、在日米軍司令官



官房長官要請(平成27年12月1日)

- 青年連合会
- 商工会
- PTA連合会

全面返還合意から20年



「市民の不安や苦悩はすでに限界を超えており、不信感は頂点に達している」とし、「市民の悲願である普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還を必ず実現させるため、より一層の取り組みを進めてまいります。」とのコメントを発表いたしました。

記者会見(平成28年4月11日)

訪米行動の趣旨

1996年に普天間飛行場の返還が合意されてから本年度で20年の節目を迎える。

返還合意の原点は「まちのど真ん中にある普天間飛行場の早期の危険性除去と基地負担軽減」であったが、航空機事故の危険性や、騒音等は、未だ市民生活に大きな負担となっている。

本年1月24日の市長選においても、「普天間飛行場の固定化は絶対にあってはならない」という民意が示され、普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還は市民が共有する強い願いである。

その着実な実現には米国政府の理解・協力が不可欠であることから、本訪米行動を通し、宜野湾市の現状と、地元の生の声を発信し、普天間飛行場問題の早期解決を求める。

主な日程

日付		内容	
4月24日	日	ワシントンDC	・東京発/ワシントン発 ・在アメリカ合衆国大使館でのブリーフィング
4月25日	月		【要請】連邦議員 【視察】ウォルターリード米軍医療センター、NIH
4月26日	火		【要請】国防・国務省、連邦議員、CFR
4月27日	水		【要請】連邦議員、CNAS、CSIS、笹川平和財団 ・記者会見
4月28日	木		・ワシントン発/ハワイ ホノルル着 ・ハワイ沖縄県人会との交流
4月29日	金	ハワイ	・在ホノルル総領事館でのブリーフィング 【要請】米軍関係 ・ハワイ宜野湾市人会との交流
4月30日	土		・ハワイ ホノルル発/沖縄着(翌日)

要請事項

- 1、普天間飛行場を絶対に固定化・継続使用せず、一日も早い閉鎖・返還を実現すること。
- 2、返還されるまでの間の、普天間飛行場の危険性除去及び基地負担軽減を、日米両政府においてこれまで以上の取り組みを行うこと。
- 3、普天間飛行場に配備されているMV-22オスプレイを他の拠点へ移駐すること。
- 4、市民生活への影響が特に大きい夜間飛行及び住宅地上空における旋回飛行訓練を行わないこと。

説明資料①

宜野湾市道11号道路整備事業



市道宜野湾11号の事業目的

市道宜野湾11号は、地域交通量の緩和及び地域住民の生活環境の改善に大きく寄与することを目的として整備するものです。

今後のスケジュール(予定)

- 平成27年度 用地測量、物件調査
- 平成28年度 文化財調査、物件調査、用地取得、物件補償、整備工事(一部民地側)
- 平成29年度 文化財調査、用地取得、物件補償
- 平成30年度以降～ 文化財調査、用地取得、物件補償、整備工事

現場立入り視察の様子



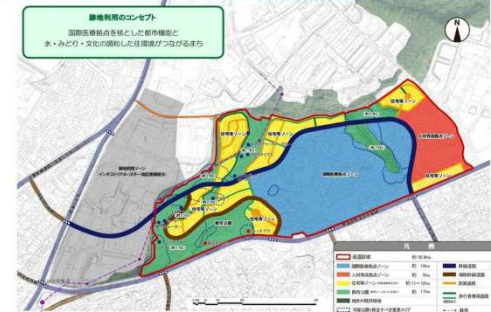
説明資料②

アクセス道路の設置

国道 58 号と西普天間住宅地区跡地をつなぐアクセス道路の設置



キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用計画



事業内容

平成 27 年 3 月に返還されたキャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）のまちづくりに向け、現在計画を進めております。地区には県道 81 号線と国道 58 号を結ぶ幹線道路が通る予定となっております。インダストリアル・コリドーが返還されるまでの間は、国道 58 号と西普天間住宅地区をつなぐアクセス道路（高架式）を共同使用することで平成 27 年 12 月に日米間で合意されました。このアクセス道路は、平成 28 年度から調査に着手し、平成 32 年度から供用開始を目標に進めて参ります。



高架式道路の形状等のイメージ



今後のスケジュール（予定）

- 平成 28～29 年度
調査・測量・設計
- 平成 29～32 年度
工事（完成後供用開始）

アクセス道路の幅員

車道部：3.0+3.0=6.0m（片側一車線）
 歩道部：2.5m（片側のみ）
 路肩部：0.5+0.5=1.0m
 地覆：0.6+0.4=1.0m
 道路幅員 10.5m

説明資料③

クォーターリーミーティング

クォーターリーミーティング

宜野湾市では、市内に所在している普天間飛行場、キャンプ瑞慶覧、海軍病院の各司令官と、現地レベルで解決可能な議題を協議する場として、定期的に「クォーターリーミーティング」を開催し、お互いが抱える諸課題の解決に向け建設的に取り組んでおります。

2016年4月13日 場所：海軍病院



2015年8月25日 場所：宜野湾市役所



2015年5月20日 場所：キャンプフォスター



2015年12月11日 場所：普天間飛行場



2014年10月11日 場所：海軍病院



宜野湾市及び各基地で行われる様々なイベント開催時には、互いに参加、交流をはかり、双方の文化理解に努めております。

はごろも祭り カチャーシー大会



フテンマフライトラインフェア



宜野湾市新春の集い



これまでに、太平洋基地司令官との間で災害時の基地内への立入りを、また、普天間飛行場との間で緊急車両の人的立入りについての協定書を締結しております。



2015年12月22日
普天間飛行場と緊急車両立入り協定

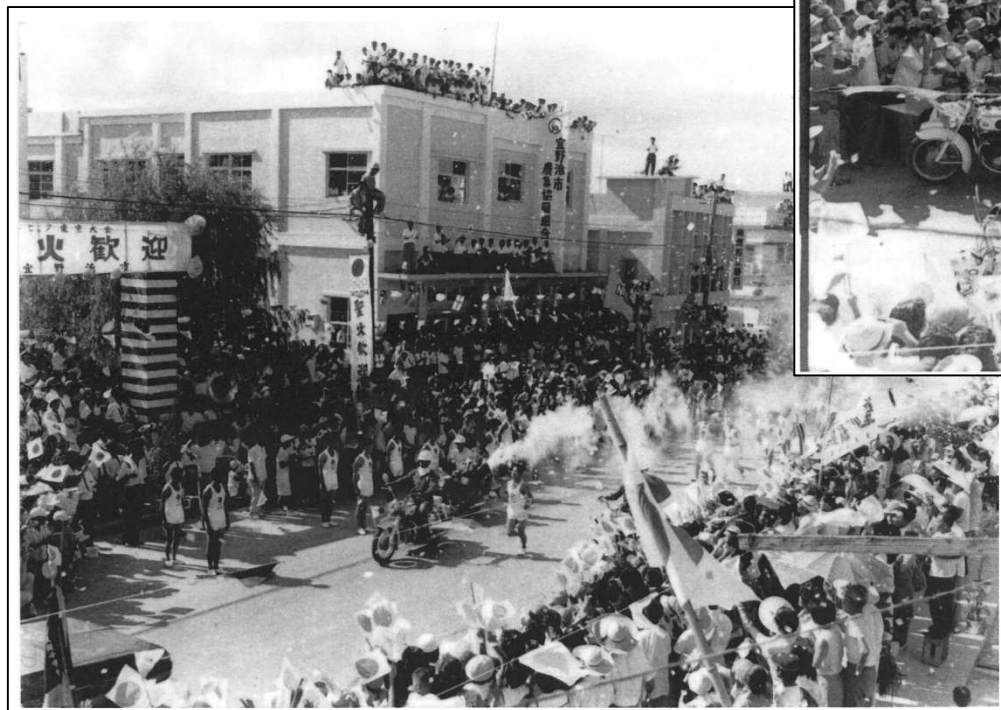


2012年11月5日
太平洋基地司令官、北谷町、宜野湾市で
災害時立入り協定を締結

キャンプ瑞慶覧避難訓練

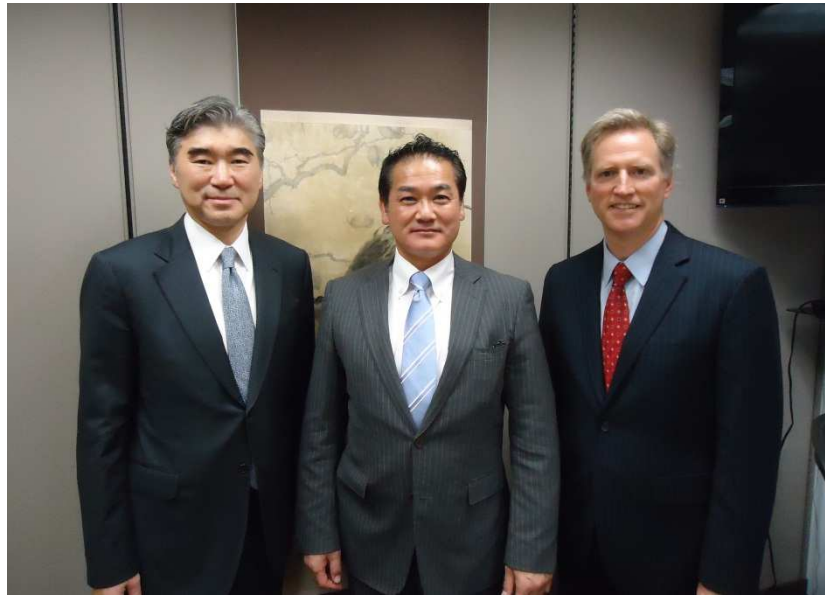


説明資料④ 聖火リレーの開催



昭和39年 東京オリンピック開催時、
宜野湾市内で行われた聖火リレーの様子

米国政府関係者との面談(ワシントンD.C.)



国務省

(4月26日)

ソン・キム 次官補代理
ジョセフ・ヤング 日本部長



国防総省

(4月26日)

エイブラハム・デンマーク次官補代理
カラ・アバンクロンビー東アジア筆頭部長
アンドリュー・ウィンターニッツ日本部長

要請に対する反応

国務省



- 市長の早期返還への決意は我々も共有しており、強い決意で臨んでいる。
- 普天間飛行場の返還という目標に向かって進むことが重要であり、唯一の解決策は辺野古への移設である。市長、県、政府とも協力していきたい。
- (宜野湾市道11号、西普天間地区アクセス道路等について) 日米間の協力体制を示す良い機会であり、地元における友好関係の維持を反映するものである。基地負担軽減については、ここ数年取り組んできている。
- 普天間飛行場の返還の実現に向けて時間を割いてきた。返還が実現した暁には、新しい土地利用が可能である。

要請に対する反応

国防総省



- 市長の見解については理解する。
- 普天間飛行場の返還については、辺野古への移設が唯一の解決策で、綿密に議論している。日本政府も努力を継続しており、われわれも努力していく。
- 市長と同じくらい普天間飛行場の返還について思っている。できるだけ早く解決できるよう、日本政府と協力していく。
- 現場レベルでの緊密な連携に感謝する。政府間だけでなく、県や市とも協力をしていきたい。
- (聖火リレーについて)すばらしい。いいアイデアだと思う。

連邦議員との面談(ワシントンD.C.)



ダン サリバン上院議員
(4月25日)

共和党・アラスカ代表

所属委員会:貿易・科学・輸送機関委員会、軍事力委、環境と公共事業委、退役軍人事業委



マデリーン ボルダリオ下院議員
(4月26日)

民主党・グアム代表

議会員:アジア系アメリカ人会議、海軍・海兵隊会議

連邦議員との面談(ワシントンD.C.)



ジョン マケイン上院議員
(4月27日)

共和党・アリゾナ州代表
所属委員会: 軍事委、外交委、国土安
全保障・政府問題委 等



メイジー ヒロノ上院議員
(4月27日)

民主党・ハワイ州代表
所属委員会: 軍事関連、海軍力関連、
水力発電、情報機関、小企業と企業
化、復員軍人委

要請に対する反応

連邦議会議員



- キャンプシュワブに代替施設ができてからでないと、普天間飛行場は返還されないと理解している。統合計画をできるだけ早く進めるべきである。



- お互いに思いを通じるのは良いこと。今後も協力して普天間飛行場の閉鎖に向かっていきたいと思っており、移設を進めることがそれにつながる。



- 大きな目的は普天間飛行場を返還することであり、そのために、日本政府も動いて欲しい。移設されるまでは出ていくことができない。辺野古が実現しないと、普天間に居続けることとなる。



- 普天間飛行場の返還については、優先順位は高い。街中から移動させなければならない。
- 返還の早期実現が必要ということで大統領とも合意している。いろいろと議論している総理にも感謝している。市長にとってもやさしい問題ではないが、何とか解決したいというその熱意を評価する。問題があれば、直接言って欲しい。いつでもお聞きする。

シンクタンクとの面談(ワシントンD.C.)



4月26日

CFR米外交問題評議会
シーラ・スミス上級研究員

外交問題・世界情勢を分析・研究する。アメリカの対外政策決定に対して著しい影響力を持つと言われている。



4月27日

CNAS新アメリカ安全保障センター
パトリック・クロニン上級顧問

米国の安全保障を専門に扱う。国家安全保障政策において高い影響力を備えている。

シンクタンクとの面談(ワシントンD.C.)



4月27日

CSIS戦略国際問題研究所
マイケルJ・グリーン副所長

外交・安全保障分野を中心に重要な政策提言を米政府に対し行い、政策形成に大きな影響力をもつ。



4月27日

笹川平和財団米国
デニス・ブレア会長

CSISと共に「日米安全保障研究会」を発足。安全保障に関する研究等を行っている。

要請に対する反応

シンクタンク



- 重要なのは日米で考えを共有すること。アメリカは辺野古が唯一と考えている。他の選択肢について、アメリカでそのような話をしている人はいない。
- 大統領と首相が決めたことであり、約束は実現しなければならない。アメリカでは、日本側がリードを取り安倍首相が実行していくと思っている。
- 残念ながら返還合意から20年が経過し、この問題についてはアメリカでも疲れが出てきている。アメリカの政権が代わる来年1月に、普天間飛行場の確実な返還に向け、議論のテーブルに乗るようにしなければならない。何もできなければ、このまま固定化の可能性が高まってしまう。
- 普天間の固定化はベストではないが、辺野古が実現できなければそのようにしかならない。条件付きの返還であるので、代替施設は必要になる。
- 国と沖縄県が辺野古を巡って争っていることは理解している。この問題が解決をしたら、雰囲気も変わってくる。危険性の除去もできる。
- 理想と現実の両方を見ている市長はすばらしい。理想は高く持ちつつ、現実も見ないと、問題の解決には向かって行かない。

医学・医療機関の視察

NIH アメリカ国立衛生研究所



1887年に設立された合衆国で最も古い
医学研究の拠点機関

ウォルターリード米軍医療センター



米国4軍の兵士、関係者を受け入れる、
国防総省最大の総合
医療施設

記者会見



ワシントンD.C. 滞在4日目には、ナショナルプレスクラブにて記者会見を行い、これまでの訪米要請行動の成果について説明をいたしました。

記者会見(4月27日)

キャンプスミス、カネオヘ基地(ハワイ)



キャンプスミス
(4月29日)

ジョン・トゥーラン中将
(米太平洋海兵隊司令官)

スティーブン・ラダー少将
(米太平洋海兵隊基地司令部戦略政策部長)



カネオヘ基地視察
(4月29日)

ハワイ沖縄県人会との交流(4月28日)



ハワイ宜野湾市人会との交流(4月29日)



第6回 世界のウチナーンチュ大会

The 6th Worldwide Uchinanchu Festival

海外の沖縄県系人「世界のウチナーンチュ（沖縄の人）」が、5年に1度母県に集う、沖縄県ならではの感動のイベントです。

前夜祭：2016年10月26日（水）

本大会：2016年10月27日（木）～30日（日）

会場：沖縄セルラースタジアム、沖縄コンベンションセンター、他

ウチナーの 運動・芸術 世界へ発信!



～ お問い合わせ ～

世界のウチナーンチュ大会実行委員会事務局

〒900-8570 沖縄県那覇市東 1-2-2

TEL：098-866-8060 FAX：098-866-2622

世界のジノーンチュ歓迎のタベ ご案内



～ Ginowan city Welcome Party Invitation ～



沖縄料理や伝統芸能の余興などをご用意しております。ぜひご参加ください。
(※参加申し込みは不要です。直接会場までお越しください)

対象：宜野湾市ご出身の方及びそのご親戚

日時：2016年10月28日（金） 18：00 ～

場所：宜野湾市内のホテルもしくは総合結婚式場を予定しています。

※会場は決まり次第、宜野湾市ホームページや県人会へお知らせします。

入場料：無料

～ お問い合わせ ～

沖縄県宜野湾市役所 市民協働推進課 担当：生田/平田 (Ikuta/Hirata)

〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩1-1-1

TEL：098-893-4411 (内線423) FAX：098-892-7022

E-mail：ikuta1308@city.ginowan.okinawa.jp



訪米の成果

- ◆各要請先にて、返還合意の原点である普天間飛行場の早期の危険性除去が最優先であることを再確認
- ◆返還合意から20年が経過しており、早期の解決が最重要であるという認識を共有
- ◆普天間飛行場の一日も早い返還に向け、協力して取り組んでいくことを確認

最後に、外務省沖縄事務所をはじめとする
本訪米にかかりご協力いただいた
皆さまに心より感謝申し上げます。

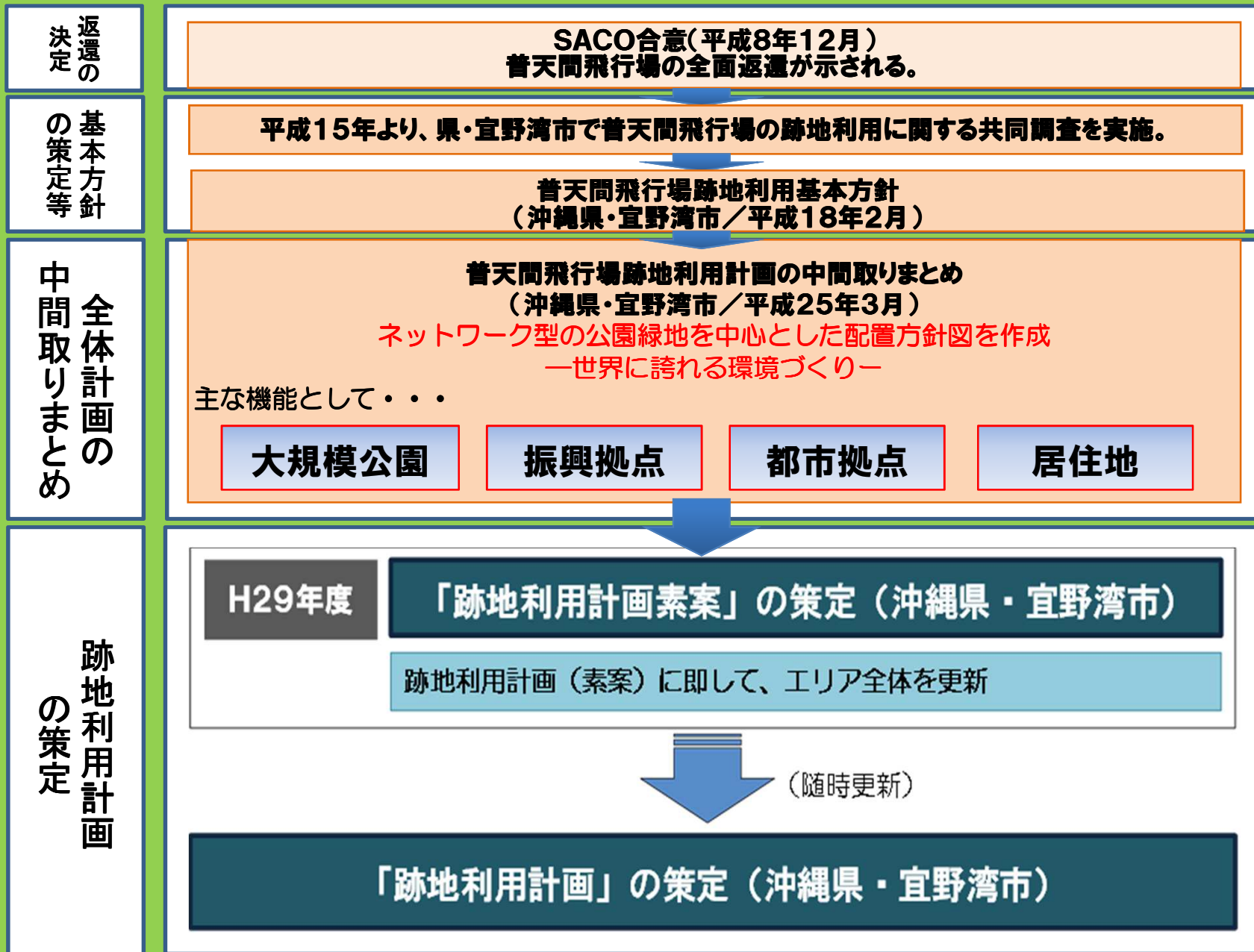
ご清聴ありがとうございました

平成28年度
宜野湾市訪米要請行動報告会



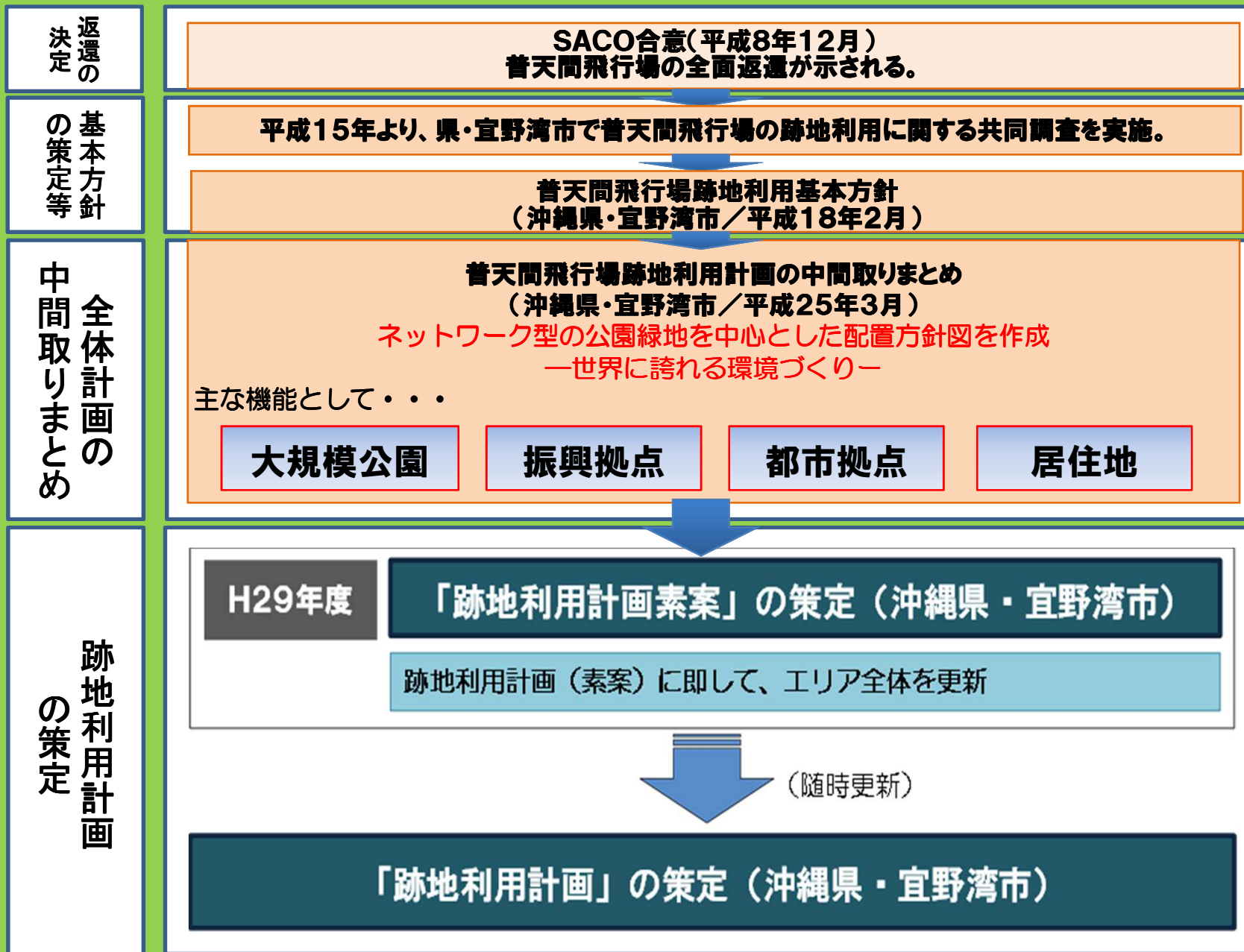
普天間飛行場の跡地利用計画の策定について

まち未来課



普天間飛行場の跡地利用計画の策定について

まち未来課



PV作成の範囲

3. 「配置方針図」の作成

「配置方針図」は、上位計画や現段階で推定される跡地の現況にもとづいて作成したものであり、土地利用や道路ルート・公園等の位置・範囲等は確定したものではありません。

「配置方針図」は今後の取り組みを踏まえて更新していくことを前提としています。



北側エリア (H27年度)

中央エリア (H26年度)

南側エリア (H28年度)

凡例	
	振興拠点ゾーン
	都市拠点ゾーン
	居住ゾーン(●旧集落跡)
	公園
	周辺市街地の公園緑地等
	並松街道
	シンボル道路
	高規格幹線道路、地域高規格道路
	主要幹線道路 (計画構想区間)
	都市幹線道路 (既設区間/計画構想区間)
	地区幹線道路 (跡地関連) (既設区間/計画構想区間)
	公共交通軸 (構想)
	湧水

※ 土地利用の各ゾーンには地域制緑地(敷地内緑地等)が含まれています。